

目指す学校像

生徒一人一人が夢や希望を描ける学校  
～自己肯定感を高め、すべての生徒の可能性を引き出す～

2つの柱

学ぶ意欲の向上(学習環境の整備)  
豊かな心の育成(ルールとマナーを守る)

学校経営の重点と方策

学ぶ意欲を高める(確かな学力の育成)

- ① 学び方・学ぶ場所・学びのニーズを生徒自ら選択できる環境作りを推進し、生徒に自己調整する力を身につけさせながら、教員はその環境設定をする役割を目的とした新分掌組織「選択調整部」を開設する。
- ② 個別最適な学びと共同的な学びの一体化  
習熟度別指導、少人数指導等を活用し、指導の個別化及び学習の個性化により、生徒一人一人に応じた指導を実施する。探求的な学習や体験活動を通じ、生徒同士で協働し、他者を価値ある存在として尊重し、多様な生徒の個性を最大限に生かす。
- ③ ICTの効果的な活用  
生徒がICTを文房具や筆記用具のように活用できるよう環境を整備するとともに、教員が基礎的ツールとして活用するための研修を充実し教育の質の向上に努める。
- ④ 学習環境を整備し、学びの目標や学び方を伝え、学びの環境を整える。

豊かな心の育成

- ① 規範意識の醸成  
・多様な人々と互いを尊重し合いながら協働し、社会で共通に求められるルールとマナーを学び規範意識を育む。
- ② 体験活動・特別支援学級との交流活動の充実  
・文化、生活体験、自然の素晴らしさや命の大切さを学ぶ自然体験、特別支援学級と通常学級の交流、職場体験やボランティア活動等を通して、豊かな心や人間性を育み、感性を高め、人生や社会の在り方を創造的に考えることができる資質、能力を身につける。
- ③ いじめの根絶  
・いじめは重大な人権侵害であり、他者の人格を否定し、多様性を認めない行為である。目指す教育と対極にあることを認識し、防止と解消に全力で取り組む。

魅力ある教育環境作り

- ① 教職員の働き方改革:個々の業務・役割分担を明確にし、組織的な対応を徹底し、前例踏襲にとらわれず、柔軟に新たな教育活動を展開する。
- ② 会計年度職員や外部人材との連携を図り、業務分担を明確にし、校務改善を積極的に実施する。
- ③ 保護者・地域との連携を柱として、信頼関係を築く。
- ④ 育児休業・自宅勤務等の利用を促進し、働き方改革を進める。